

(出水市文化町字道場園)

位置と環境

古墳群は米ノ津川によって形成された沖積平野を東に望む洪積台地の標高約14mの縁辺部に所在する。この台地縁辺部には、縄文時代中期末から後期にかけての出水貝塚や、中世山城の尾崎城が所在する。また、この台地对岸の沖積平野には、縄文時代後期・古代の大坪遺跡、沖田岩戸遺跡が所在する。

調査の経緯

昭和8年、地主による畑地盤下げ工事中に板石積石室墓が副葬品を伴い発見された。

その後、昭和32年には土砂採取のための発掘調査が鹿児島県教育委員会によって行われた。

昭和45年には、古墳群の残存確認のための学術発掘調査が、鹿児島県立出水高校考古学部を調査主体として行われた。

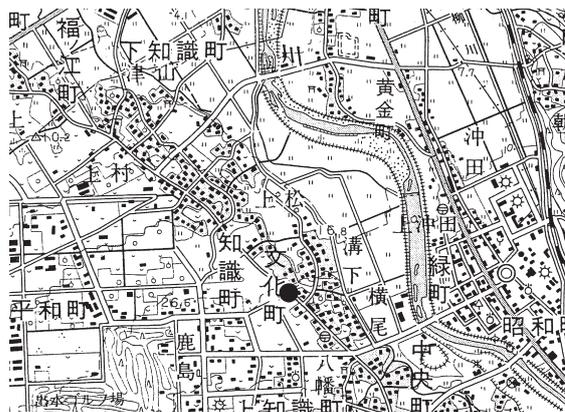
平成12年には、古墳群の範囲確認のための発掘調査が出水市教育委員会によって行われた。

遺構と遺物

昭和8年の畑地盤下げによる工事中には、数基の円形及び方形の地下式板石積石室墓を検出した。その中の最大の大きさをもつ方形石室からは、鉄刀・鉄鎌・短甲・石突などが出土したとされるが、遺構遺物とも、検出状況などの記録はとられておらず、そのなかの主なものは東京国立博物館に送られた。それらは、金環2・銀環3・短甲1・轡1・刀身2・石突1・剣身1・土師器埴1などである。

昭和32年の発掘調査では、地下式板石積石室墓が5基を検出した。石室墓はほぼ6m間隔で点在しており直径約1.4~1.8m前後のほぼ円形に近い形状を持つ地下式板石積石室墓であり、ほかにも方形・楕円形のものもあった(第2図)。この中でも1号石室墓のみが破壊を免れており、内部は土が充填しており床面に副葬品が検出された。第2・4・5石室墓は蓋石が無く側壁のみ、第3号石室墓は床面のみ確認され、この面から遺物のみが出土した。

遺物としては、鉄刀6・鉄剣10・短剣2・鉄鎌約220本がある(第3図)。



第1図 溝下古墳群の位置

昭和46年の発掘調査では、1基の地下式板石積石室墓(第6号石室墓)と1基の敷石墓(第7号石室墓)を検出した。板石積石室墓は、楕円形の形状を呈し、石室墓内部からの副葬品などの出土は全く見られなかった。敷石墓は地表下約1m下に板石が1枚あり、この約30cm下に板石が敷き詰められていた。板石積石室墓上部とほぼ同じ深さに、この1枚の板石があることから、墓標を持った敷石墓と考えられる(第4図)。

平成12年の発掘調査では、地下式板石積石室墓1基(第8号石室墓)・竪穴式住居跡1軒を検出した。石室墓は蓋石が既に破壊されており、石室墓内部は未調査である(第5図)。住居跡からは成川式土器や肥後地方土師器・布留式土器などが出土した。

特徴

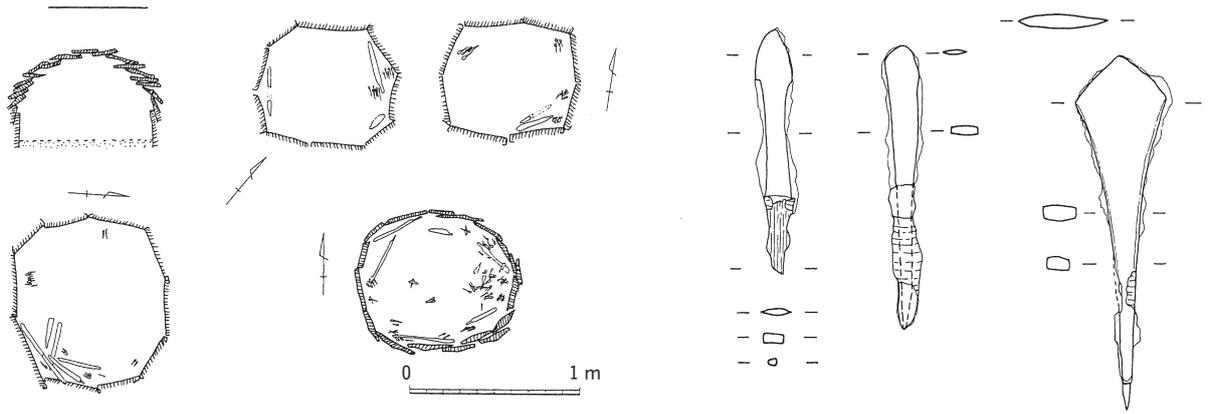
地主が採取した遺物の中には鉄銚があり、鹿児島県では吾平町の地下式横穴墓内の石棺から出土したものについて2列目である。

資料の所在

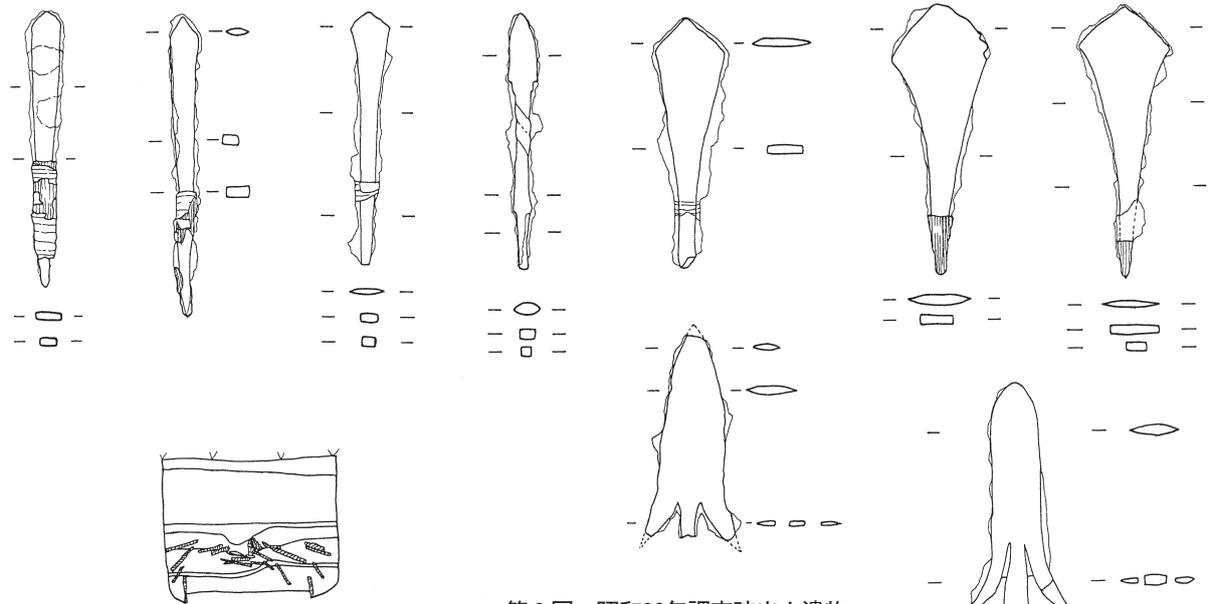
出土した遺物は、昭和8年出土時のものは一部が東京国立博物館、昭和32年・平成12年のものは出水市教育委員会に保管されている。

参考文献

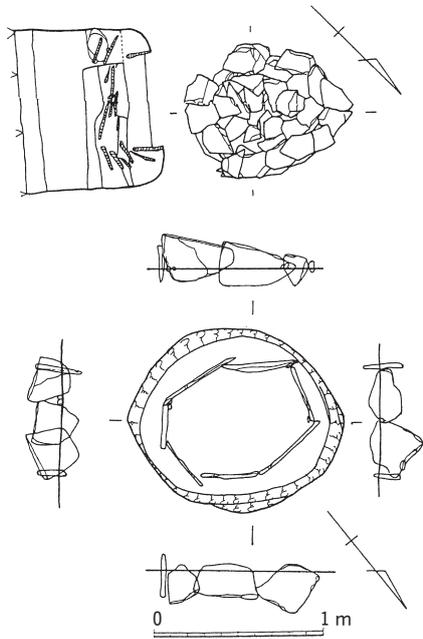
寺師見國1958「鹿児島県の地下式板石積石室」『鹿児島県文化財調査報告書』第五輯
池水寛治ほか1970「鹿児島県出水市溝下古墳群」『鹿児島考古』5号 (岩崎新輔)



第2図 昭和32年調査時石室墓

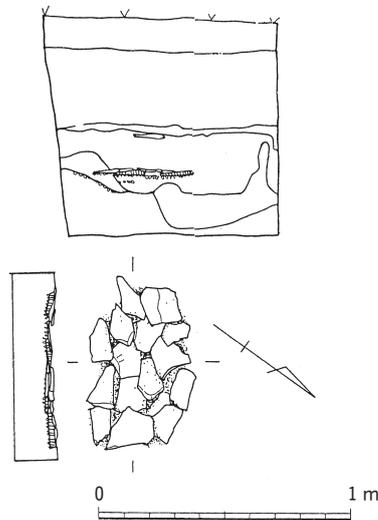


第3図 昭和32年調査時出土遺物



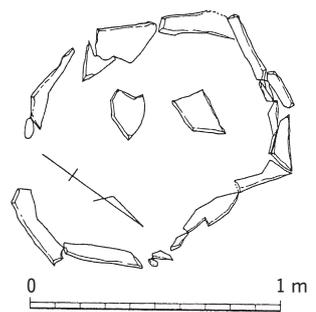
第6号

第4図 昭和45年調査時石室墓



第7号

第5図 平成12年調査時石室墓



第8号